



下館紙園まつり

熱い夏到来！4年ぶりの本格開催

130年の歴史を持つ明治神輿や、毎年担ぎ出される神輿としては日本最大級の重量を誇る平成神輿が参集する、筑西の夏の風物詩「下館紙園まつり」。7月27日から30日の4日間にわたって行われ、のべ約25万人が熱狂しました。

27日、伊達組による宮出しが行われ、明治神輿と女性だけで担ぐ姫神輿が羽黒神社を出発。下館駅南口をねり歩いたのは6年ぶりとなります。来場者数が最多となった29日は「わっしょいカーニバル」が同時開催され、市内外から神輿や山車屋台40基が下館駅前に参集。「神輿甚句」の歌に合わせて神輿が採まれると、担ぎ手の息と足並みが揃い、会場には一体感が生まれました。最終日30日の早朝には、祭り期間中に神輿に宿した穢けがれを川に流し清める禊みそぎの神事「川渡御」が勤行川で行われ、担ぎ手は胸まで水につかりながら、神輿を担ぎ、上がった水しぶきは朝日に照らされ輝いていました。

熱気と感動をもたらした下館紙園まつり。多くの人の心に刻まれ、また来年も筑西の夏を熱く彩ることでしょう。





伊達氏、縁の地で神輿を担ぐ

28日、福島県伊達市の須田博行市長が特産品の桃をPRするため、本市を訪れました。須田市長は市内各所を視察したほか、下館祇園まつりにも参加し、明治神輿の渡御を行いました。今後、こうした友好的な交流を継続し、交流人口の増加を目指します。

【筑西市と歴史的なつながり】
 文治5年（1189年）、伊佐莊中村（現在の筑西市）を治めていた伊佐朝宗は源頼朝の奥州征伐に参加する。この戦いの功績により伊達郡一帯（現在の伊達市）を領地として賜り、氏を伊達と称した。戦国時代、天下に名を轟かせた独眼竜政宗は伊達家第17代当主にあたる。

